

視 察 報 告

ネットワークみらい 野上 恵子

【視察日】 2026年1月23日

【視察先】 兵庫県神戸市

【調査事項】 部活動地域展開「コベカツ」について

中学校部活動は、子供たちが異年齢の交流の中で、豊かな人間関係を築き、協調性、忍耐力、体力や技能の習得につながるなど、大きな役割を果たしてきた。しかしながら少子化が進む中で、部活動の休部・廃部が相次ぎ、単独では試合に出られない学校も増えるなど、学校単位での活動の維持が難しくなっている。また価値観が多様化する中で、部活動に起因するトラブルも頻発しており、専門性や意思に関わらず教員が顧問を担う仕組みは限界に近づいていた。

さらに、生徒や保護者の意識も、より「楽しみたい」という意向への変化や部活動にない種目（ダンス、料理など）のニーズが高まっており、現在の活動ではニーズに十分に答えることができなくなっていた。

そこで、神戸市では2026年度中に部活動を終了し、生徒が地域の方々とともに活動する「KOBE◆KATSU（コベカツ）」を開始することとなった。

様々な課題はあるが、将来に渡って子どもたちが主体的に選択し、多様な活動に参加できる機会を確保できるよう取り組んでいくので、理解と協力を市民にお願いしているという。

平日も含めて地域展開していく理由

アンケート結果から、平日と休日で指導者が異なることを生徒・保護者が不安に感じている、責任の所在が不明確になる、平日と休日の活動の連携について懸念する教職員の声等から、神戸市では平日・休日ともに地域展開することとした。

2026年9月から本格実施

部活動を学校単位から地域単位の取組としていく方向性を2019年に国が示した。このまま学校ごとの実情に応じて部活動を続けた場合、休部・廃部が相次ぐなどの混乱が長引いていくことが考えられるため、関係者に同じ目線で考えてもらい、幅広く協力を得ながら活動を推進できるよう、2026年9月という期限を設定して取り組みを進めている。

予算について

「コベカツ」の活動を支援するための基金を創設する。現在約1100団体が登録。市は環境整備や保護者の負担軽減策について検討。登録団体は、主に学校などの市の施設を利用。基金は、備品の更新などに活用。基金に加え、市は保護者が支払う会費の補助などに充てるため、新年度当初予算案に5億4500万円を計上。活動に必要な平均の月会費は3200円。

まとめ

- 「コベカツ」のプロジェクトチームが市教委にあり、人事と予算が手厚い。
- 市民や関係者に理解と納得が行き届くように、広報活動（コベカツHP、教育委員会だより等）が大変充実している。
- しかしながら、学校の働き方改革になっているものの、市内各部活動全ての場所と時間の調整を市教委のプロジェクトチームが一手に引き受けている、その労力が非常に大きい。